

北海道大学医学部医学科

自己点検評価書

(2016年～2020年)

1. 理念と目標	1
2. 沿革	1
3. 組織体制	4
4. 組織改革と将来構想	4
5. 中期目標・中期計画	5
6. 教育	6
6-1. 教育目的(目標)と特徴	6
6-1-1. 目的(目標)	6
6-1-2. 特徴	7
6-2. 教育の実施体制	7
6-2-1. 教員組織の編成	7
6-2-2. 教育の実施体制	7
6-2-3. 教育改革に取り組む体制	9
6-3. 教育の質の向上及び教育のためのシステム	9
6-3-1. 教育改善のための検討・実施体制	9
6-3-2. FD の状況	9
6-3-3. 授業アンケートの実施状況	10
6-4. 学生の受入	11
6-4-1. アドミッション・ポリシー	11
6-4-2. 入学者選抜の実施体制	11
6-4-3. A0 入試の実施	12
6-4-4. 入学定員・収容定員	13
6-4-5. 入学者数・収容者数	13
6-4-6. 社会人学生の受入	13
6-4-7. 留学生の受入	13
6-5. 教育内容及び方法	14
6-5-1. 教育課程の編成	14
6-5-2. 教育方法	17
6-5-3. 教育の成果	24
6-5-4. 学生支援	24
6-5-5. 教育活動(教育組織以外)	25
7. 広報	29
7-1. 広報活動	29
7-1-1. 一般広報・入試広報	29

1. 理念と目標

本医学部医学科の教育理念は、世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献することである。さらに、次の教育目標及び行動目標を掲げている。

教育目標

広範な医学知識、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野を備え、医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成する。

行動目標

1. 医師・医学研究者として活躍するための基礎をなす医学知識・技術を身につける。
2. 生涯にわたり自ら学ぶ習慣と態度を身につける。
3. 科学的な思考・判断能力と探究心に基づく創造性を養う。
4. 医師・医学研究者に要求される高い倫理観と豊かな人間性を培う。
5. 国際交流の重要性を理解し、それに必要な語学力、医学知識、教養を身につける。
6. 医療におけるチームワークの重要性とそこでの医師の役割を理解する。

2. 沿革

明治 9 年 8 月 14 日	札幌農学校が発足した。
明治 40 年 6 月 1 日	札幌農学校が東北帝国大学農科大学となった。(同年 9 月、開学式挙行)
大正 7 年 4 月 1 日	北海道帝国大学が設置された。(東北帝国大学農科大学は北海道帝国大学農科大学(現農学部)となった。)
大正 8 年 4 月 1 日	北海道帝国大学に医学部が置かれた。
大正 10 年 4 月 22 日	医学部に附属病院が置かれた。 医学部に於ける講座の種類およびその数が定められた。 (内科学, 外科学, 解剖学, 生理学, 医化学, 病理学)
大正 10 年 10 月 1 日	医学部附属病院に産婆養成所が設置された。
大正 11 年 5 月 16 日	細菌学, 耳鼻咽喉科学, 薬物学, 眼科学, 解剖学第二, 同第三, 生理学第二, 病理学第二の各講座が増設された。
大正 12 年 5 月 16 日	産婦人科学, 小児科学, 皮膚泌尿器科学, 法医学, 内科学第二, 外科学第二の各講座が増設された。
大正 13 年 7 月 8 日	精神病学, 衛生学, 内科学第三の各講座が増設された。
大正 14 年 5 月 19 日	外科学第三講座が増設された。(昭和 23 年 7 月整形外科学講座に改称)
昭和 14 年 5 月 15 日	臨時附属医学専門部が設置された。
昭和 20 年 6 月 16 日	医学部附属病院に看護婦養成施設(厚生女学部)が置かれた。
昭和 22 年 6 月 10 日	医学部附属病院産婆養成所は医学部附属病院助産婦養成所と改称された。
昭和 22 年 10 月 1 日	帝国大学官制の一部が改正され, 帝国大学官制を国立総合大学官制に改められ, 北海道帝国大学は北海道大学と改正され

	た。
昭和 24 年 1 月 31 日	放射線医学講座が増設された。
昭和 24 年 5 月 31 日	国立学校設置法が公布され,学校教育法による国立の大学として新たに北海道大学医学部が定められ,同時に従前の規程による北海道大学附属医学専門部は本学に包括された。なお,学部附属の研究施設として,附属病院,附属病院登別分院,看護婦養成施設が置かれた。
昭和 24 年 6 月 22 日	泌尿器科学講座が増設され,従来の皮膚泌尿器科学講座は皮膚科学講座と改称された。
昭和 25 年 3 月 31 日	附属医学専門部が廃止された。
昭和 26 年 4 月 1 日	医学部附属看護婦養成施設が看護学校に改められた。
昭和 27 年 4 月 1 日	助産婦養成所が北海道大学医学部附属助産婦学校に改められた。
昭和 29 年 4 月 1 日	医学部に薬学科が設置された。薬学科に薬化学講座が設置された。
昭和 30 年 7 月 1 日	薬学科に生薬学講座,薬品分析化学講座が増設された。
昭和 31 年 4 月 1 日	公衆衛生学講座が増設された。 医学部附属診療エックス線技師学校と医学部附属温泉治療研究施設が設置された。 薬学科に薬品製造学講座,衛生化学講座が増設された。
昭和 33 年 4 月 1 日	大学院薬学研究科が設置された。
昭和 35 年 4 月 1 日	麻酔学講座が設置された。
昭和 37 年 4 月 1 日	医学部附属癌免疫病理研究施設が設置された。 医学部附属癌免疫病理研究施設に病理部門が設置された。
昭和 38 年 4 月 1 日	生化学第二講座が増設された。
昭和 40 年 4 月 1 日	国立学校設置法の一部改正により薬学部が設置された。 医学部薬学科は分離独立(薬学部薬学科及び製薬化学科が設置された。) 脳神経外科学講座が増設された。
昭和 41 年 4 月 1 日	医学部附属の教育施設として衛生検査技師学校が設置された。
昭和 42 年 4 月 1 日	医学部附属癌免疫病理研究施設にウイルス部門が増設された。
昭和 44 年 4 月 1 日	医学部附属診療エックス線技師学校が医学部附属診療放射線技師学校に改組された。 医学部附属癌免疫病理研究施設が医学部附属癌研究施設と改められた。
昭和 46 年 4 月 1 日	医学部附属癌研究施設に生化学部門が増設された。
昭和 47 年 4 月 1 日	医学部附属衛生検査技師学校が医学部附属臨床検査技師学校に改められた。
昭和 47 年 5 月 1 日	医学部附属動物実験施設が設置された。
昭和 48 年 4 月 27 日	循環器内科学講座が増設された。
昭和 50 年 4 月 16 日	薬理学講座が薬理学第一講座及び薬理学第二講座に改められた。
昭和 54 年 4 月 1 日	医学部附属癌研究施設に遺伝部門が増設された。

昭和 58 年 4 月 1 日	医学部附属看護学校が廃止された。核医学講座が増設された。
昭和 59 年 4 月 1 日	医学部附属臨床検査技師学校が廃止された。
昭和 60 年 4 月 1 日	臨床検査医学講座が増設された。医学部附属助産婦学校が廃止された。
昭和 61 年 3 月 31 日	医学部附属癌研究施設遺伝部門が廃止された。
昭和 61 年 4 月 1 日	医学部附属癌研究施設に分子遺伝部門が増設された。 医学部附属診療放射線技師学校が廃止された。
昭和 62 年 5 月 21 日	形成外科学講座が増設された。
平成 4 年 4 月 10 日	医学部附属癌研究施設に細胞制御部門が増設された。
平成 5 年 10 月 12 日	医学部附属病院新病棟が竣工した。
平成 6 年 6 月 24 日	医学部附属温泉研究施設が廃止され、リハビリテーション医学講座が増設された。
平成 7 年 4 月 1 日	神経内科学講座が増設された。
平成 8 年 3 月 31 日	医学部附属癌研究施設分子遺伝部門が廃止された。
平成 8 年 5 月 11 日	医学部附属癌研究施設に遺伝子制御部門が増設された。 医学部附属癌研究施設に客員研究部門として遺伝子治療開発部門が増設された。 医学部附属病院登別分院が廃止された。 加齢制御医学講座，生体医工学講座が増設された。
平成 13 年 4 月 1 日	医学部附属動物実験施設が大学院医学研究科附属動物実験施設に改組された。
平成 15 年 4 月 1 日	生体機能学専攻生体機能構造学講座が機能形態学講座に，病態制御学専攻分子病態制御学講座が病態内科学講座に，高次診断治療学専攻機能回復医学講座が機能再生医学講座に，癌医学専攻癌制御医学講座が癌診断治療学講座に改称された。
平成 15 年 10 月 1 日	医学部附属病院と歯学部附属病院が統合され，北海道大学病院となった。
平成 16 年 1 月 30 日	大学院医学研究科南研究棟が竣工した。
平成 16 年 2 月 27 日	医歯学総合研究棟が竣工した。
平成 16 年 4 月 1 日	北海道大学が国立大学法人となった。
平成 17 年 3 月 10 日	大学院医学研究科東南研究棟が竣工した。
平成 18 年 4 月 1 日	大学院医学研究科に連携研究センター「フラテ」が設置された。
平成 19 年 7 月 13 日	大学院医学研究科東北研究棟が竣工した。
平成 20 年 3 月 28 日	大学院医学研究科北研究棟が竣工した
平成 21 年 3 月 27 日	大学院医学研究科中研究棟が竣工した。
平成 22 年 7 月 9 日	医学部学友会館「フラテ」が竣工した。
平成 22 年 9 月 1 日	大学院医学研究科に医学教育推進センターが設置された。
平成 26 年 4 月 1 日	大学院医学研究科の医学専攻予防医学講座及び社会医療管理学講座が統合され，医学専攻社会医学講座となった。
平成 26 年 5 月 28 日	大学院医学研究科附属動物実験施設が完成した。
平成 28 年 1 月 15 日	医系多職種連携教育研究棟が完成した。
平成 29 年 4 月 1 日	大学院医学研究科が大学院医学研究院・医学院に改組された。

3. 組織体制

医学部には、医学科、保健学科の2学科を置いている。

それぞれの学科には、下表に掲げる学科目を置いている。学部に学部長を置き、医学研究院長をもって充てるとともに、医学科長は医学部長をもって充てている。

また、研究院に、研究院長補佐3名以内を置き、研究院専任の教授のうちから研究院長が指名する者をもって充てている。そのうちの1名は医学科教務委員会委員長の職責を担っている。

(2020年3月31日現在)

医学科	解剖学，生理学，生化学，薬理学，病理学，微生物学，免疫学，法医学，衛生学，公衆衛生学，内科学，外科学，整形外科学，産婦人科学，眼科学，精神医学，小児科学，皮膚科学，形成外科学，泌尿器科学，耳鼻咽喉科学，放射線医学・核医学，麻酔学，脳神経外科学，救急医学，リハビリテーション医学
-----	--

4. 組織改革と将来構想

医学生への教育は本学科のもっとも重要な使命の一つであり、絶えず改善と充実を図っている。具体的な取組の主たるものとしては、2007年に設置された医学教育推進室を2010年に医学教育推進センターに改組し、専任教員を大幅に増員したことが挙げられる。改組時には、医学教育を専門とする専任の教授1名を招聘したほか、専任の准教授1名、並びに教育助教（教育を主たる任務とする助教）9名（基礎系3名、臨床系6名）を配置した。その後、2013年には専任の准教授を1名増員して2名とし、また内科系、外科系の教授各1名を副センター長（併任）として配置した。

本医学科では「次世代を担う医学研究者・教育者」と「研究する心をもった指導的臨床医」の養成を目指している。従来から、学部生を一定期間、研究室に配属し、研究に従事させる実習が用意されていたが、2013年度入学者からこの取り組みを大幅に強化し、『医学研究演習』として導入した。当演習では、学生は1か月間（希望者は2か月間）を完全に研究室で過ごすことになる。その他、2010年度より、医学科6年次から入学できるM.D.Ph.D.コースを用意し、基礎医学系に進む医学科卒業生の育成を図っている。同コース修了生の中から毎年1名を特任助教に任用する制度を導入しており、2013年4月には初めての修了生から特任助教1名が任用され、2016年から2021年にかけては計4名が任用された。

医学教育の国際化に対応するため、室長（教育担当副研究院長）、専任講師のほか、2013年から専任の助教1名を国際連携室に配置し、同室の機能を強化している。同室は医学部生の海外への派遣・外国人医学生の受け入れの他、医学科学生に対する英語教育の支援を行っている。2014年度には英語に堪能な職員をテニュアトラック教員として1名雇用し、医学教育の国際化を推進している。

2013年度にはカリキュラムを大幅に改正し、同年度入学者から診療参加型臨床実習を強化し、72週を確保した。今後とも、医学教育推進センターの機能を強化し、世界医学教育連盟のグローバルスタンダードに準拠した教育課程を用意し、医学教育の質保証と更なる充実を図る。

2018年には医学教育推進センターと国際連携室を統合した医学教育・国際交流推進

センターと改組し、業務の統合と効率化を推進した。

5. 中期目標・中期計画

医学部医学科 第3期（2016年度～2020年度）中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
I. 教育に関する目標 1. 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (1) 専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見並びに異文化理解力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する。	(1) 医学教育分野の国際認証の取得を念頭に、世界医学教育連盟のグローバルスタンダードにあわせた教育課程を導入する。 (2) 大学院教育のグローバル化として、授業科目やシラバスの英語化などを推進することにより、日本人学生の英語力強化と留学生の受入を促進する。 (3) 医療系における多職種連携の重要性を学ぶことを目的に、多職種連携実習を導入する。 (4) クリニカルシミュレーションセンター（仮称）を活用し、スキルの向上を目的としたシミュレーション教育を導入する。 (5) 診療参加型臨床実習を充実させ、その実習期間を国際標準に合わせ、全教育期間の1/3程度とする。 (6) 医学部医学科において、2016年度から「クォーター制」を導入する。 (7) 医学部医学科及び医学院において、アセスメント・ポリシーを2019年度までに策定する。 (8) 医学部医学科及び医学院において、カリキュラムマップを2017年度までに作成する。
2. 教育の実施体制等に関する目標 (1) 教育の質を向上させるため、教育力・教育支援力を高度化する体制を整備する。	(1) 教育の質を向上させるため、教育力・教育支援力を高度化する体制を整備する。
3. 学生への支援に関する目標	
4. 入学者選抜に関する目標 (1) 広く世界に優秀な人材を求め、本学の教育を受けるにふさわしい学力・能力を備えた人材を多様な選抜制度により受け入れる。	(1) 外国人留学生特別選抜制度を導入し、渡日前入試を実施する。
II. 社会との連携や社会貢献及び地域を指向した教育・研究に関する目標	(1) 臨床系連携講座を設置した道内の基幹病院で、定期的な講習会及び講義を実施し、

<p>1. 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>(1) 大学の教育研究活動の成果を活用し、地域・社会の活性化、課題解決及び新たな価値創造に貢献する。</p>	<p>配置した博士課程学生による研究及び臨床活動により、地域社会へ貢献する。</p> <p>(2) 地域の高校において、先端医療等に関する授業・講義を実施し、高校生に対して医療・医学への関心を高める。</p> <p>(3) クリニカルシミュレーションセンター（仮称）を活用し、学外の医師及び医療従事者に対する技術講習会等を開催することで地域医療の活性化に貢献する。</p> <p>(4) 死因究明教育研究センター（仮称）を設置し、死因究明等に関するセミナー、研修会等を実施することにより、学外の医療従事者、法医学関連業務従事者等の知識向上に貢献する。</p> <p>(5) 地方自治体等と共同で行う地域コホート研究等を通じて、地域住民に対する健康維持・増進に関する啓発活動を推進する。</p>
<p>Ⅲ. その他の目標</p> <p>1. グローバル化に関する目標</p>	<p>(1) 海外の大学との部局間交流協定の拡充及び交流を促進することにより、留学生の受入れを増加させるとともに、日本人学生の留学機会を増加させる。</p> <p>(2) 国際交流基金制度の見直しを行い、外国人留学生への支援を拡充する。</p>
<p>Ⅳ. 外部資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標</p>	<p>(1) 医学部の教育研究基盤を強化するため、医学部創立 100 周年記念事業として寄附金を募る。</p>
<p>Ⅴ. 評価の充実に関する目標</p> <p>1. 自己点検・評価及びそれに基づく第三者の評価の結果を教育研究活動及び大学運営の改善等に活用する。</p>	<p>(1) 国際基準に対応した医学教育の分野別認証評価を受審する。</p>

6. 教育

6-1. 教育目的(目標)と特徴

6-1-1. 目的(目標)

本学部では、本学中期目標の「専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見並びに異文化理解力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する。」を踏まえ、教育目標としての以下の行動目標を掲げている。

医学科では世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する

ことを理念に掲げると共に広範な知識，高い倫理観，豊かな人間性，国際的視野を備え，医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成することを教育目標とし6つの行動目標を掲げている。

1. 医師・医学研究者として活躍するための基礎をなす医学知識・技術を身につける。
2. 生涯にわたり自ら学ぶ習慣と態度を身につける。
3. 科学的な思考・判断能力と探究心に基づく創造性を養う。
4. 医師・医学研究者に要求される高い倫理観と豊かな人間性を培う。
5. 国際交流の重要性を理解し，それに必要な語学力，医学知識，教養を身につける。
6. 医療におけるチームワークの重要性とそこでの医師の役割を理解する。

6-1-2. 特徴

専門職業人である医師・医学研究者としての高い自覚形成と人間性の涵養，豊富な基礎分野・専門分野の知識・技術の獲得，新しい課題への積極的・創造的チャレンジ，指導的立場に立ちうる人材育成などの実践が，医学部医学科の教育目標の特徴となっている。

6-2. 教育の実施体制

6-2-1. 教員組織の編成

2019年5月1日現在の学生入学定員，正規教員数，学生数を資料1に示す。正規教員数は，教授32名，准教授36名，講師23名，助教91名となっている。

資料1 医学科の組織構成（2019年5月1日現在）

学生入学定員	教授	准教授	講師	助教	助手	合計教員数	学生数
112	32	36	23	91	2	184	574(1年次を除く。)

※特任教員を含む

6-2-2. 教育の実施体制

これまで医学教育推進センター，教育助教制度，国際連携室などの設置や機能強化を通して，教育実施体制を整備してきた。2018年4月1日には，これら医学教育推進センターと国際連携室，ならびに医学英語教育担当を統合して医学教育・国際交流推進センターに改組した（資料2）。また，シミュレーション医療教育を推進するため，2016年4月1日に，クリニカルシミュレーションセンターを開設した（資料3）。

1) 医学教育・国際交流推進センターへの改組

医学研究院において医学教育に関する研究開発を行うとともに，医学院および医学部医学科における教育活動ならびに国際交流について企画，立案および調整等を行い，本研究院，本学院および本学科の医学教育ならびに国際交流の推進に資することを目的として，医学教育推進センターと国際連携室，ならびに医学英語教育担当を統合し，医学教育・国際交流推進センターへ改組した。

資料2 医学教育・国際交流推進センター（2019年4月1日現在）

室名	配置教員	主な業務
医学教育研究開発部門	助教 1名 教育助教 3名	1. 医学教育についての研究開発並びに企画，立案及び実施等に関すること 2. 教育の評価システムの研究開発に関すること 3. 医学教育に関する情報の収集及び解析に関すること 4. 共用試験（OSCE，CBT）の実施及び管理に関すること 5. 教員のFD（Faculty Development）についての企画及び実施に関すること 6. その他医学教育の研究及び推進に関すること
医学英語教育部門	テニュアトラック教員 1名	1. 医学科の医学英語に関する教育の企画，立案，実施に関すること 2. 医学英語セミナーの企画，立案，実施に関すること医学部国際交流基金に関する事項 3. その他国際交流に関する重要事項
国際連携部門	URA 1名	1. 研究成果の国際的な発信の支援に関すること 2. 外国の大学との交流に関すること 3. 留学生の交流に関すること 4. 国際開発協力に関すること 5. 医学研究院・医学院・医学部医学科国際交流基金に関すること

2) クリニカルシミュレーションセンターの開設

医療用シミュレーターを用いた模擬的環境において，医師，歯科医師，薬剤師，看護師等の医療関連職種 of 学生や教職員等に対して，医療技術に関する教育，訓練，研修等を行うことにより，医療現場における実践的な臨床能力の向上を図るとともに，シミュレーション医療教育に関する研究・開発を行うことを目的として，2016年4月1日に，クリニカルシミュレーションセンターを開設した。

資料3 クリニカルシミュレーションセンター（2019年4月1日現在）

配置教員	主な業務
准教授 1名	1. 医療用シミュレーター等を用いた学生の実習及び臨床能力に関する実技試験に関すること。 2. 医療用シミュレーター等を用いた医療関連職種の教職員等の教育，訓練及び研修に関すること。 3. シミュレーション医療教育に関する教材及びプログラムの研究・開発に関すること。 4. 医療用シミュレーターの保守・点検・管理に関すること。 5. センターの施設・設備の利用に関すること。 6. その他シミュレーション医療教育に関すること。

3) 解剖の実施数

医学生 of 教育において，また大学の役割である研究，診療，社会貢献の観点からも，各種の解剖を実施することは医学部の重要な役割である。

本学における，系統解剖，病理解剖，法理解剖の実施数を資料4に示す。

資料 4 解剖実施数 (単位: 件)

年度	2016	2017	2018	2019	計
系統解剖	41	48	53	51	193
病理解剖	34	23	30	19	106
法医解剖	300	419	368	299	1386
計	375	490	451	369	1685

6-2-3. 教育改革に取り組む体制

医学科教務委員会とコース毎のカリキュラム検討を行う各種担当者会議とが有機的な連携体制を敷いて、機動的で包括的なカリキュラムの立案実施を行っている。また、医学教育・国際交流推進センター等を設置して専任教員を配置し、FDの実施(資料5)、共用試験の実施、海外医学校との学生相互派遣と国際交流、医学英語教育業務支援などの教育改革体制を整えている(資料2)。

6-3. 教育の質の向上及び教育のためのシステム

6-3-1. 教育改善のための検討・実施体制

2007年6月に、医学教育に関する企画・検討を行う専門部署として大学院医学研究科・医学部教育支援室が発足、2010年9月に大学院医学研究科医学教育推進センターに改組して専任教員を配置し、さらに、2018年4月に医学教育・国際交流推進センターに改組し、国際連携室をセンターの国際連携部門に転換し、FD、共用試験、海外医学校との学生相互派遣と国際交流、医学英語教育業務支援を実施するなど、教育改革体制を整えている。

時代に即し、かつ社会等からの要請に応ずる教育方針を立案するため、2018年度に現役学生も委員に含むカリキュラム委員会を設置し、本学科のカリキュラム・ポリシー並びにアセスメント・ポリシーの立案・改善を行っている。医学科教務委員会と、カリキュラム委員会が有機的な連携体制を敷いて、機動的で包括的なカリキュラムの立案実施を行っている。

2010年度から医学教育推進センター(2018年度からは医学教育・国際交流推進センター)主催により、年複数回のFDを開催し、継続的な教育の質の向上に関する取り組みを行っている。

6-3-2. FDの状況

FDの実施状況を資料5に示す。年4回のFD(うち1回は1泊2日の合宿形式)を実施した。新規採用教員に対してカリキュラムプランニング等の教育理論と実際を、2013年度のカリキュラム改訂に伴い大きく変わった臨床実習について毎年FDを実施するとともに、教育の質向上のために取り組むべき国際認証や国際連携、大学院教育や学生評価といったトピックスを取り上げ、FDを実施した。

資料 5 FDにおける検討テーマ

年度	開催場所(日程)	参加教職員数	検討テーマ等
2016年度	医学部学友会館フラテホール (2016.4.20)	90名	・医学部医学科新カリキュラムにおける診療参加型臨床実習について

	医学部学友会館フラテホール (2016. 6. 8)	51名	・東京大学医学部の教育改革と国際認証
	北広島クラッセホテル (2016. 8. 12～8. 13) 【宿泊型】	45名	・医学部医学科新カリキュラムの現状と課題
	医学研究科セミナー室 (2016. 10. 12)	22名	・カリキュラムプランニングについて
2017年度	医学研究院セミナー室 (2017. 6. 28)	23名	・カリキュラムプランニングについて
	医学部臨床大講堂 (2017. 7. 27)	34名	・医学部医学科新カリキュラムにおける診療参加型コア科臨床実習について
	北広島クラッセホテル (2017. 8. 10～8. 11) 【宿泊型】	42名	・大学院教育 - 研究医養成の推進
	医学部学友会館フラテホール (2018. 2. 14)	35名	・医学教育のこれからと技能評価
2018年度	医学研究院セミナー室 (2018. 6. 27)	22名	・カリキュラムプランニングについて
	医学部臨床大講堂 (2018. 7. 26)	25名	・医学部医学科新カリキュラムにおける診療参加型コア科臨床実習について
	北広島クラッセホテル (2018. 8. 10～8. 11) 【宿泊型】	40名	・国際連携教育, Post-CC OSCE
	医学部学友会館フラテホール (2019. 1. 30)	39名	・英語で授業を行うために (入門編)
2019年度	医学研究院セミナー室 (2019. 6. 25)	9名	・カリキュラムプランニングについて
	医学部臨床大講堂 (2019. 7. 23)	21名	・医学部医学科新カリキュラムにおける診療参加型コア科臨床実習について
	北広島クラッセホテル (2019. 8. 9～8. 10) 【宿泊型】	27名	・国際認証
	医学部学友会館フラテホール (2019. 11. 26)	39名	・国家試験を卒前教育に生かすには

出典：総務課課長補佐担当データ

6-3-3. 授業アンケートの実施状況

北海道大学では、学生による授業評価を全学的に統一した内容で実施している。この全学的な授業評価に加えて、医学科では医学教育推進センター（2018年度からは、医学教育・国際交流推進センター）が中心になり、科目（臨床実習では診療科）および教員の教育活動について、独自に学生による評価を行っている。2年次以上の各学年で、教育面で優れていた科目と教員（教授を除く）を選考し表彰（エクセレント・ティーチャー賞）するとともに、授業評価の結果を科目責任者にフィード

ドバックし、授業の改善を図っている。

6-4. 学生の受入

6-4-1. アドミッション・ポリシー

医学科が求める学生像と医学部の学習目標とする医学研究者および医師像をホームページ等に掲示することで入学者募集方針を明確にしている。

医学科の求める学生像

1. 強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生
2. 積極性、堅実性ととともに他者との協調性をもつ学生
3. 多様な事象に対し興味、理解力を持ち、共感とともに批判する能力をもつ学生

医学部の学習目標とする医学研究者および医師像

1. チーム医療のリーダー役を勤める能力をもつ。
2. 後輩を指導できる能力をもつ。
3. 地域医療の指導的役割を果たす能力をもつ。
4. 国際交流能力をもつ。
5. 自己能力の限界を自覚し、他の専門職と連携する能力をもつ。
6. 生涯学習をつづける習慣・態度をもつ。
7. 科学的妥当性・探求心・創造性をもつ。
8. 高い倫理感と豊かな人間性をもつ。
9. 社会発展に貢献する使命感と責任感をもつ。

6-4-2. 入学者選抜の実施体制

一般入試、A0入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試を実施し、幅広い志願者の中から優秀な学生を選抜している。また、個別学力検査に面接試験を導入し、適性を合否判定に盛り込んでいる。

入学時に学部を選ばない大きく入り入試で合格した1,000名を超える総合理系の1年生の中から、毎年5名の成績優秀者を医学科に受け入れている。

また、他学部を卒業した者を対象に学士編入学試験を実施し、毎年5名が2年次から編入学している。学士編入学試験では2012年からTOEFLなどの英語試験の成績による足切りを行っているが、毎年100名前後の志願者がいる。(資料6～7)

資料6 医学科における入学者選抜の種類・時期・定員

入学 年度	試験区分	入学 定員	試験時期	入学者数	内訳		
					道内高校出身	左記以外	現役
2016	前期日程	97	2月	102(20)	48(13)	54(12)	47(9)
	A0	5	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	帰国子女	—	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	国費外国人	—	—	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	後期日程	—	—	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
	総合理系移行者	5	1年次成績 による	5(4)	—(—)	—(—)	—(—)

	学士編入学	5	1次：8月 2次：9月	5(1)	－(－)	－(－)	－(－)
	計	112		112(25)	48(13)	54(12)	47(9)
2017	前期日程	97	2月	102(22)	51(7)	51(15)	42(7)
	A0	5	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	帰国子女	－	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	国費外国人	－	－	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	後期日程	－	－	－(－)	－(－)	－(－)	－(－)
	総合理系移行者	5	1年次成績 による	5(2)	－(－)	－(－)	－(－)
	学士編入学	5	1次：8月 2次：9月	5(0)	－(－)	－(－)	－(－)
	計	112		112(24)	51(7)	51(15)	42(7)
2018	前期日程	97	2月	102(17)	47(8)	55(9)	45(11)
	A0	5	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	帰国子女	－	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	国費外国人	－	－	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	後期日程	－	－	－(－)	－(－)	－(－)	－(－)
	総合理系移行者	5	1年次成績 による	5(1)	－(－)	－(－)	－(－)
	学士編入学	5	1次：8月 2次：9月	5(1)	－(－)	－(－)	－(－)
	計	112		112(19)	47(8)	55(9)	45(11)
2019	前期日程	97	2月	102(18)	53(7)	49(11)	47(5)
	A0	5	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	帰国子女	－	2次：11月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	国費外国人	－	－	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	後期日程	－	－	－(－)	－(－)	－(－)	－(－)
	総合理系移行者	5	1年次成績 による	5(2)	－(－)	－(－)	－(－)
	学士編入学	5	1次：8月 2次：9月	5(1)	－(－)	－(－)	－(－)
	計	112	－(－)	112(21)	53(7)	49(11)	47(5)

※2011年度以降は定員5名を総合理系へ

6-4-3. A0入試の実施

一般入試に加えて現役高校生を対象にA0入試を実施している。個別学力検査に面接試験を導入し、適性を合否判定に盛り込んでいる。これに加えてセンター試験の結果を加味して選抜を行っている。

6-4-4. 入学定員・収容定員

資料 7

学部名	学科名	項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	入学定員に対する平均比率	備考	
医学部	医学科	志願者数	390	356	359	317	—	学部別入試（学科別）に係る数値	
		合格者数	103	102	104	104			
		入学者数	102	102	102	102	100%		
		入学定員	102	102	102	102			
		入学定員充足率	100%	100%	100%	100%			
		在籍学生数	575	584	569	574	—		2～6年次に係る数値
		収容定員	560	560	560	560			
		収容定員充足率	103%	104%	102%	103%			

6-4-5. 入学者数・収容者数

資料 7 のとおり。

6-4-6. 社会人学生の受入

社会人学生の受入体制を整備するため、2年次への学士編入学を実施し、幅広い視野をもった多様な人材を受け入れている。

6-4-7. 留学生の受入

留学生の受入体制として医学科では海外の交流協定締結大学から留学生を受け入れている。また、北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)による留学生の受入れも行っている。(資料 8～9)

資料 8

海外の交流協定締結大学からの留学生受入数 ※「留学」以外の外国人学生を含む

協定大学名	2016	2017	2018	2019
台北医学大学	3	5	4	0
国立台湾大学	0	2	4	3
国立成功大学	0	0	0	1
香港中文大学	0	3	1	1
香港大学李嘉誠医学院	5	4	8	1
中国医薬大学	0	3	2	2
東フィンランド大学	1	1	2	0
シンガポール国立大学	2	2	3	2
UAE大学	0	6	7	4
マラヤ大学	0	1	1	0
慶北大学校	1	2	4	0
慶尚大学校	2	2	2	0
国立陽明大学	0	0	2	0
マヒドーン大学	7	0	4	4

ヴェローナ大学	0	0	1	1
南洋理工大学	0	0	4	4
シドニー大学	0	0	1	0
トゥルク大学	0	0	1	0
エボニ州立大学	0	0	1	1
プレトリア大学	0	0	1	0
ハワイ大学マノア校	0	1	0	0
清華大学	0	1	0	0
ジュネーブ大学	4	0	0	0
延世大学校	1	0	0	0
ハンブルク大学	0	0	0	2
計	26	33	53	26

資料9 訪問研修生受入実績

年度	受入学生所属大学（国籍）	期間
2016	UAE大学（アラブ首長国連邦）	4週間
	慶北大学（韓国）	4週間
	ファティマ大学（フィリピン）	8週間
2017	ハンブルク大学（ドイツ）	4週間
	ミュンヘン大学（ドイツ）	2週間
2018	パーツ&ロンドン医科歯科学校（イギリス）	3週間
	Krida Wacana Christian University（インドネシア）	4週間
	韓国中央大学（韓国）	4週間
2019	チューリッヒ大学（スイス）	8週間
	国立台湾大学（台湾）	7週間
	パヴィア大学（イタリア）	2週間
	カレル大学（チェコ共和国）	4週間

6-5. 教育内容及び方法

6-5-1. 教育課程の編成

(1) 教育課程の編成

全学教育は1年次を中心に実施され、医学科の専門教育は2年次以降に実施されている。カリキュラムの改訂が継続的に行われ、カリキュラムのバランスに配慮しつつ、2021年度の国際認証の受審に向けて、診療参加型臨床実習の拡充などを進めている。

また、2019年度入学者から、2年次からの医学専門科目を履修する要件として、1年次に全学教育科目の所定の要件を満たした46単位すべてを修得することとした。これらのカリキュラムの見直しの中で、2年次における専門科目の開講時期を2学期から1学期へ前倒しすることにより、過密スケジュールの改善を図っている。このようにカリキュラムを継続的に見直すことにより、より専門的な能力を身に付け指導的人材養成を目指す新カリキュラムを実現している。

(2) 教育の方法

変化する環境に適応できる広い視野と柔軟性が求められていることに対応して、全学教育では医学生として必要な必修科目に加えて様々な一般教養科目を履修できるようになっている。2年次から始まる2年半の専門教育の後、臨床実習開始前に全国統一の共用試験を行い、患者に接する医学生の知識と能力を保証している。

交流協定を結んでいる海外の大学と交換留学を行っており、多数の学生が学部生時代に短期間の留学を経験できるように工夫している。臨床実習ではチーム医療体験も導入した。専門科目はコース制のカリキュラムを採用し、医学専門教育における講義科目、演習科目、実習科目がバランスよく設定されている。

クリッカーシステムや e-learning の導入を開始し、授業の工夫を促進している。医学英語演習や、医系技官、弁護士、地域医療機関の職員による講義を行うなど多様な授業を行っている。

在校生に対するコースごとのオリエンテーション、懇話会などを企画・実行するとともに、成績不良者を抽出し、クラスチューター制度や医師国家試験の模試などを通じて履修指導が行われている。

全学教育では必修科目を設定するとともに2018年度から必要単位数を緩和してバランスのとれた履修を促している。また、医学科教員による一般教育演習（フレッシュマンセミナー）なども開講し、医学科学生のみならず、広く医学に興味を持つ学生に専門領域の紹介を行っている。専門教育では、座学の講義や実習に加えて4週間にわたって研究室に配属する「医学研究実習」を行い、研究領域での主体的な学習を促している。医学科では音羽博次奨学基金や同窓会学生表彰など優れた学生への顕彰制度が定着している。共用試験やGPAを含む、多角的な評価が実施されており、その内容はシラバスなどで学生に明示されている。卒業生の就職先・進学先はバランスよく分布しており、医師国家試験は2019年度に現役合格率100%を達成した。

カリキュラムの体系化を促進するため、学生がカリキュラム進行を把握できるように、カリキュラムマップを作成し、公表している。これは学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に則った教育が成されているかを検証する際にも活用している。2016年にはカリキュラム変更に伴い改訂を行った。

「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために、教学アセスメント・ポリシーとアセスメント・チェックリストを2018年度に策定した。

6-5-1-1. 全学教育

医学部教員が責任教員として開講している全学教育科目として、一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「医学・生命科学研究への招待」及び社会の認識「医学史・医学概論」を開講している。他学部の学生も履修可能となっており、専門職連携教育（Interprofessional Education, IPE）を実践している。

2019年度から、従来2年次に行っていた「医学概論」および「医遺伝学」を1年次全学教育科目に移動し、医学科の履修推奨科目とした。これにより、より早期に医学専門科目を受講し、専門科目の学習意欲向上を図れるようにした。

6-5-1-2. 学部専門教育

2018年度より、6年次開講科目として多様な専門識者との連携等を目的とした

「多職種連携・シミュレーション実習」を設け、在学中からチーム医療への意識を高める工夫をしている。

医学専門教育では医師の資格を取得するために必要なカリキュラム体系を構築し、2015年からは、臨床実習前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる評価試験である、共用試験（CBT・OSCE）への合格を、スチューデント・ドクターとして大学病院および学外教育関連病院で行われる4年次2学期からの臨床実習を履修する条件とし、学生の質の向上を図った。

関係者からの意見聴取として、2015年度から卒業生、2018年度から就職先に対してアンケート調査を実施している。さらに、2019年度より専門科目の充実のため、学生委員を含むカリキュラム委員会を設置した。

2021年度に予定されている医学教育分野の国際認証受審を見据え、2016年度より診療参加型実習を大幅に強化し、臨床実習の期間を下記のとおり72週に拡充した。

1. 4年次2学期より5年次1学期、全科臨床実習34週。全臨床教室を1週ずつ巡回する。
2. 5年次2学期、コア科臨床実習、24週。主要診療科6科を4週ずつ履修する。うち3科については学外の教育関連病院にて実習を行う。
3. 6年次1学期、選択型臨床実習、12週。学生が任意に3診療科を選択し、それぞれ4週ずつ実習を行う。このうち、5年次2学期のコア科臨床実習と6年次1学期の選択型臨床実習については、診療参加型実習として各診療科の診療チームの一員として実習を行う。

臨床実習では医学生が診療チームの一員として診療に参加しながら学ぶ、診療参加型の実習が求められている。その実施にあたっては学生の知識・技能・態度のレベルを全国的にも一定水準以上に保つことが必要とされており、その質を社会に対して保証するための共用試験を臨床実習開始前に、以下の内容で行っている。

- 1) CBT: 診療参加型実習に必要な知識の総合的な理解の程度を、コンピュータを用いた客観試験で評価するもの。
- 2) 臨床実習前 OSCE: 診療参加型実習に必要な診察・技能と態度を、客観的臨床能力試験で評価するもの。

さらに、6年次の臨床実習終了後には、臨床実習後 OSCE を行い、診療参加型臨床実習後に、卒後初期臨床研修を開始するのに必要な、診察技能と態度を習得しているかを評価している（2018年トライアル開始。2021年より正式施行）。

6-5-1-3. 大学院教育

学部学生の研究マインド育成のために、基礎医学コースの最後に医学研究演習を行っている。3年次の学生を4週間にわたって基礎医学教室や遺伝子病制御研究所に配属し、研究活動に触れさせて成果報告会を開催している。

2009年度より北大版 MD-PhD コースを設置し、研究医の養成を行っている。本コースは、医学部6年次に大学院授業科目を先取り履修し実質的に研究活動を開始する医学科 MD-PhD コースと、3年間の修業による博士課程の短期修了を目指す

医学研究院 MD-PhD コースからなる。2016 年度以降は進学者が毎年 1-3 人と定常化している。6 年次の診療参加型選択科臨床実習では、学生の希望する基礎医学教室に 12 週間配属して研究活動を行っている。

6-5-2. 教育方法

6-5-2-1. 学生や社会からの要請への対応

時代に即した教育方針を策定するため、2018 年度に教員と在学生によるカリキュラム委員会を設置し、本学科のカリキュラム・ポリシー並びにアセスメント・ポリシーなどの立案・改善を行っている。医学科教務委員会と、カリキュラム委員会が有機的に連携することで、機動的かつ包括的なカリキュラムを立案している。

6-5-2-2. 他学部との単位互換制度

医学科の教員による全学教育科目が開講されており、他学部の学生も履修することができる。医学科のカリキュラムは単位制であり、他学部の学生も履修することができる。また、大学院科目として開講される医学専門科目の多くは、全学の修士課程学生も履修できるようになっている。

1 年次を中心とした全学教育科目では、幅広い科目を履修し単位を得ることが可能である。医学科の学生が専門科目に進むと、連日授業が行われるため、他学部の科目を履修し単位を得ることは事実上不可能である。

医学科では協定校との交換留学をする制度があり、医学科の学生は 6 年次の選択科臨床実習を海外で行うことで単位を取得できる。また、海外から来日する学生に対しても、成績評価を行って単位認定をしている。

6-5-2-3. インターンシップ

正規のカリキュラムの中では実施していないが、診療参加型臨床実習では医学科学生はスチューデント・ドクターとして診療チームの一員となって実習を行っている。

また、初期臨床研修先の病院を全国的なマッチング方式で行うにあたり、5-6 年次の学生は長期休暇を利用して自主的に病院見学などを行っている。協定校との交換留学を通じ、海外の大学病院などで実習を行う者もいる。

6-5-2-4. 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

医学科では以下のコース制カリキュラムを採用している（資料 10）。

- ①医学教養コース（1 年）
- ②基礎医学コース（2 年～3 年前期）
- ③臨床医学コース（3 年後期～4 年前期）
- ④臨床実習コース（4 年後期～6 年）

資料 10 医学科コースマップ



医学を学び将来医療を実践するための基盤となる知識と教養を身につけ、豊かな人間性を磨くため、全学教育における必修科目を指定して教育目標に沿ったコース設計を行っている。また、主に1年次を対象に医学医療に関する科目を全学教育科目として開講し、医学科の要望科目とすることで学修意欲を高める工夫をしている（資料 11）。

資料 11 医学科における学修意欲を向上させるための入学早期の授業科目

科目名	開講期	単位数	授業内容とねらい
医学概論	1-2 年次	1 単位	ビデオ学習，医療問題，グループ作業，総合発表討論などを通して，臨床現場や地域医療の現場を体験し医師の使命を考える
医学統計学・医学史概論	1-2 年次	1 単位	医学研究における生物統計学の役割を理解する。著明な医学者，医学史上の大発見，医学の進歩など，医学の発展の歴史を学ぶ
医遺伝学	1-2 年次	2 単位	生物が所有している遺伝情報がどのようにして子孫に伝わり，生涯にわたって利用されているかを理解する。さらに，遺伝子異常によってもたらされるさまざまな疾患の基礎知識を理解する。
一般教育演習（フレッシュマンセミナー）	1 年次	2 単位	「医学統計とデータサイエンス」「北大脳科学への招待」「医学・生命科学研究への招待」「ニューロンから脳へ」「感染症と社会」「家庭の医学」など，初学者に向けて医学研究や医療に関する様々な科目を開講している。

専門教育課程においては，コース毎の学習目標と授業内容をシラバスとして明示している（資料 12）。現行カリキュラムの医学専門教育における講義科目，演習科目，実習科目の単位数と割合を資料 13 に示す。

4 年次後期の臨床実習前と 6 年次前期の臨床実習後に全国統一の共用試験を行い，医学生としての知識と技能の確認を行っている。

6 年次の選択実習で，5 年次と 6 年次の学生が同じ診療科で実習する「2 階建て」教育を行い，上級生から下級生への助言指導を可能にしている。

資料 12 医学科におけるシラバスの発行

発刊冊子	配布時期	総頁数	主な掲載内容
医学とともにある学生生活	入学時	83	医学部医学科学生便覧

医学とともに歩む	入学時	174	医学部医学科専門科目シラバス
----------	-----	-----	----------------

出典：医学科教務担当データ

資料13 医学専門教育に占める科目（講義、演習、実習）の割合

カリキュラム	講義	演習	実習	合計
2016年度	66.5	7	86.5	160
カリキュラム	41.6%	4.4%	54.1%	100.0%
2017年度	66.5	7	86.5	160
カリキュラム	41.6%	4.4%	54.1%	100.0%
2018年度	66.5	7	86.5	160
カリキュラム	41.6%	4.4%	54.1%	100.0%
2019年度	64.5	7	86.5	158
カリキュラム	40.8%	4.4%	54.7%	100.0%

6-5-2-5. 授業の創意工夫

双方向型の授業を促進するためのクリッカーシステムを医学教育・国際交流推進センターに整備し、希望者に貸し出す体制を導入している。

2020年度の新型コロナウイルス感染症の拡大により、同年度の殆どの授業はzoomなどを利用してオンラインで行った。医学科では2020年度前期にできるだけ講義を集め、後期に実習を行うなどの工夫をし、専門業者にオンライン授業の補助を依頼した。基礎医学コースの実習は学生を半分に分けて同じ授業を2回行い、臨床実習については学外病院での実習は中止し、大学病院での実習は指針を策定した上でオンライン教材などを併用しながら行っている。

6-5-2-6. 企業及び官庁による特別講義

社会医学系の授業において、厚生労働省から医系技官を、弁護士事務所から医療系の訴訟を専門とする弁護士を、地域の医療機関から医師などの医療職者を、それぞれ講師として招聘し、医療行政システムや政策の現状、医療行政職者の養成、医療訴訟の実際、患者とのコミュニケーションや医療記録の重要性、地域医療の実態、などに関する講義を行っている。

6-5-2-7. 高密度で多様な授業の展開

具体的な方法は担当教員により異なるが、ほぼすべての教員が、様々な視聴覚教材や配布資料を活用し、グループ討論やクリッカーなどの利用も拡大している。

2年次には医学英語演習を導入し、生命科学・健康・医学・医療などに関係する基本的な教材を取り上げながら演習を行っている。外国人講師もしくは医学英語専門教員担当コマでは、英会話を中心とした演習を行っている。このように、外国人を含む多数の教員により幅広い内容の演習を行い、授業の多様性を促進している。

6-5-2-8. 履修指導

1年次のクラス担任制度、各コースでのオリエンテーション、コース進級時の教員との懇話会などにより、教員と学生のコミュニケーションを促進し、学生の学習に関する相談に対応している（資料14および15）。成績不良など問題のある学生について、医学科教務委員会及び各種担当者会議で対応を検討し、必要に応じて個別の履修指導を行っている。2018年度からは1年次および4年次の進級判定による留年者、6年次の成績不良者を対象に、医学科教務委員が個別指導を行うチューター制度を開始した。とくに6年生に対しては、2016～2017年度に医師国家試験の合格率が大きく低下した反省から個別指導を開始するとともに、模擬試験の一斉受験、学外講師による講演会などの対応を行い、2019年度には現役合格率が100%となった。

資料14 学修指導の実施状況

取組名	実施者	学年	実施状況
新入生オリエンテーションガイダンス	クラス担任 医学科教務委員会	1年	新入生参加必須 午前：新入生向けに基礎クラス(53クラス)単位で実施 午後：学部別入試入学者に対する進級，学部移行，学科分属等のガイダンスを実施
クラスアワーの実施	クラス担任	1年	基礎クラス別に年4回実施
全学教育科目の履修調整・登録に関するガイダンス	学務部教育推進課	1年	基本的に自由参加 1回につき1時間強で説明し，合計5回実施 学生は，学部，クラスごとの指定された時刻で参加
履修相談会(MANAVI)	学務部教育推進課 北大生協 学生組織委員会	1年	実施期間：4月上旬 自由参加 全体説明会と個別相談会
必修科目長期欠席者への対応	クラス担任	1年	必修科目において3回連続で欠席した場合，クラス担任，副担任に出欠確認システムにより，自動的に報告メールが配信され，面談等により状況確認等を行う。
履修相談	ラーニング・サポート室	1年	随時，ラーニングサポートスタッフ(特定専門職員)による履修相談対応(利用者数：2017年度 739名，2018年度 535名，2019年度 1029名) 複数の学問分野にまたがる相談など，対応に高度な知識を要する場合は，アカデミック・アドバイザー教員が対応
学部相談員	医学科教務委員会	1年	学部移行前の1年生に対する医学科の専門科目などに関した学修相談
医学科チューター制度	医学科教務委員会	2-6年	留年者および6年次の成績不振者に対し，教務委員が長期にわたって個別指導を行う。通常は定期的に面談を行い，就学指導や生活相談などを行う。

資料15 医学科の各コース進級時の懇話会

開催時期	企画内容	参加する教員
基礎医学Iコース進級時(2年次4月)	進級ガイダンス，教室紹介，懇親会	医学研究院長・副研究院長，教務委員会委員，生理系教員，病理系教員，社会医学系教員
臨床医学系コース進級時(4年次2月)	進級ガイダンス，教室紹介，懇親会	医学研究院長・副研究院長，教務委員会委員長，臨床医学系教員

出典：医学科教務担当データ

6-5-2-9. 登録することのできる単位数の上限設定

医学科における卒業に必要な総単位数は資料 16 の通りである。医学科では、2017 年度入学者までは 3 年前期までに全学教育科目から 53 単位を修得することをその後の進級要件としていたが、2 年次に専門科目が始まって全学教育科目が大きな負担となり、結果として成績不振に陥る学生が後を絶たなかった。これを改善すべく、2018 年度入学者からは、1 年次に 32 単位を取得して 2 年次に進級した場合であっても、必修科目を含めて 46 単位を取得できていない場合は専門科目の履修を許可しない（留年する）こととした。このようにカリキュラムを見直すことにより、専門科目の学修に集中させることが可能になった。また、従来専門科目の中で行ってきた授業の一部を全学教育科目に移し、1 年次に履修させることにより、基礎医学コースの過密スケジュールの改善を図っている。なお、全学教育履修登録科目の上限科目設定単位数を資料 17 に示す。

資料 16 卒業所要単位数と内訳

入学年度	総単位数	全学教育科目	学部専門科目
2016 年度入学者	208.5	53	155.5
2017 年度入学者	208	53	155
2018 年度入学者	208	53	155
2019 年度入学者	204	46	158

資料 17 全学教育履修登録科目の上限科目設定単位数

入学年度	1 年次 1 学期	1 年次 2 学期
2016 年度入学者	24	24
2017 年度入学者	23	23
2018 年度入学者	23	23
2019 年度入学者	23	23

6-5-2-10. 計画的、主体的な学習を促す取組

全学教育の履修登録科目に上限を設けることにより、過剰な履修を制限している（前述）。

1 年次のクラスチューター制度やコース進級時の教員との懇話会により、教員と学生のコミュニケーションを促進し、学生の学習に関する相談に対応している。

一人ひとりが異なる研究テーマに取り組んで科学的洞察力を涵養する科目も設定している。2011 年度カリキュラム（2011 年度入学～2012 年度入学者が履修）の 3 年次「基礎医学実習」（資料 18）と 2013 年度カリキュラム（2013 年度以降入学者が履修）の 3 年次 2 学期「医学研究演習」（資料 19）である。最終日には全体報告会として研究成果の口頭発表などを通して級友の高い能力を知り相互の刺激となっている。

模範となるべき学生への顕彰制度（資料 20）、自習室・図書館の整備による自学自習の支援などへの取組みなどを通して、主体的な学習を促進している。

基礎医学から臨床医学への進級判定には、単位取得の実質化を促す目的で医学科 GPA 制度を実施している。これは、1 科目未習得単位のある学生のうち、医学科 GPA（秀は 4、優は 3、良は 2、可は 1 ポイント）が 1.6 以上の者のみを仮進級させるものである。

資料 18 基礎医学実習

科目名	時期	実習内容
基礎医学実習	3 年次 10 月	科目紹介と研究テーマの提示配属分野希望調査
	3 年次 11 月	配属分野決定
	3 年次 1 月	配属分野での実習
	3 年次 2 月	配属分野での評価

資料 19 医学研究演習

科目名	時期	実習内容
医学研究演習	3 年次 2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生受入予定の医学研究院および遺伝子病制御研究所の各教室が、演習実習内容と成績評価基準を学生に提示し、学生はそれを元に配属を希望する教室を選択する。 ・研究実習への主体的参加 ・英文の教科書・論文の輪読会や抄読会への参加 ・リサーチセミナー・検討会への参加，実験結果の発表と討論 ・最終日は全体報告会を開催

(参考：医学とともに歩む)

資料 20 優秀な学生への顕彰制度

顕彰制度	対象	顕彰	人数
音羽博次奨学金	学業・人物ともに優秀な学生	医学院・医学部医学科の学生	15 万円 10 名以内
		医学院・医学部医学科の外国人留学生	15 万円 10 名以内
高桑榮松奨学金	優秀にしてかつ健全な学生	医学部医学科 6 年次とし、卒業生総代及びその他奨学基金委員会(選考委員会)が適当と認めた者	10 万円以内 2 名以内

出典：「音羽博次奨学基金要項の運用について」、「高桑榮松奨学基金要項の運用について」

6-5-2-11. 成績評価の方法

各科目の評価は、原則として「秀，優，良，可，不可」の 5 段階で行われている。基礎医学から臨床医学への進級判定には、単位取得の実質化を促す目的で医学科 GPA 制度を実施している。これは、1 科目未習得単位のある学生のうち、医学科 GPA (秀は 4，優は 3，良は 2，可は 1 ポイント) が 1.6 以上の者のみを仮進級させるものである。

2016 年度より、海外の教育機関との成績評価値の互換性を整理するために、成績評価の方法を 5 段階から「A+」「A」「A-」「B+」「B」「B-」「C+」「C」「D」「D-」「F」の 11 段階評価に改め、成績評価基準の細分化を進めた。このことにより、成績評価が国際標準化され、国際協定校への留学時の成績情報提供、協定校から受け入れた留学学生の成績評価を円滑に行うことが可能となった。

授業成績評価の具体的な方法は、筆記試験，レポート，口頭試問など担当する教員により異なるが、シラバスに記載され学生に示されている。臨床実習開始前の 4 年次には、全国共通の「医学教育モデル・コア・カリキュラム」で定められている共用試験を、以下の内容で行っている。

- 1) CBT (Computer Based Testing)：診療参加型実習に必要な知識の総合的な理解の程度を、コンピュータを用いた客観試験で評価する学科試験。
- 2) OSCE (Objective Structured Clinical Examination)：客観的臨床能力試験。診療参加型実習に必要な診察・技能と態度を、客観的臨床能力試験で評価する実技試験。

また、2018 年度からは、臨床実習を終えた 6 年生を対象に、臨床実習後 OSCE (post-clinical course OSCE) を行うことが全国的に行われるようになり、実技面での習熟度評価を行っている。

6-5-2-12. 成績評価と GPA

標準修業年限内での卒業率は 80% 台を維持している。本学の全ての 1 年次学生が、所属する総合教育部において受講する全学教育科目の GPA は全学平均と同程度であるが、TOEFL-ITP の 2 年

次進級予定の学部別平均値は常に全学トップレベルで、英語単位「優秀」認定制度においては、本学部進級予定の1年次学生のほぼ半数が「優秀」認定を受け、全学トップを維持している。

前述の通り、基礎医学コースから臨床医学コースへの進級判定には医学科 GPA 制度を実施し、専門科目の GPA を進級判定に利用している。

6-5-2-13. 進級・学科分属

2011年度以降は、入学後に進路を選択できる北海道大学全体の「総合理系」枠に、入学定員のうち5名を充てている。2022年度入学者からは、この移行枠を10名にする予定である。

6-5-2-14. 卒業(修了)要件

社会に対し卒業生の学習成果の質を保証するため、2015年度から卒業認定基準として、「卒業時の通算 GPA が 2.0 以上であること」と定めている。

カリキュラムの体系化を促進するため、学生がカリキュラム進行を把握できること、及び、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に則った教育が成されているかを検証する際に活用することを目的として、カリキュラムマップを作成し、公表している。

6-5-2-15. 卒業(修了)の状況

資料 21 標準修業年限内卒業(修了)率

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
80.37%	94.44%	88.68%	85.98%

(算出方法)

標準修業年限内卒業(修了)率＝

標準修業年限で卒業(修了)した者の数／標準修業年限前の入学者数

資料 22 「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
98.95%	97.00%	97.17%	97.20%

(算出方法)

「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率

Aのうち、(標準修業年限×1.5)年間に学位を取得した者の数

÷ (標準修業年限×1.5)年前の入学者数

6-5-2-16. 国家試験の合格状況

医師国家試験では、全国国公立大の合格率と同等の8割台後半以上の合格率を維持している。

資料 23 医学部新卒医師国家試験合格率

年度	2016	2017	2018	2019
北海道大学医学部医学科	88.3	89.5	96.2	100.0
全国平均	91.8	93.3	92.4	94.9

6-5-2-17. 進路, 就職の状況

卒後臨床研修先は、北海道大学病院、その他道内・道外医療機関にバランスよく分散し、内訳も大学病院、国立・自治体病院、民間病院に分布している。また、医学院博士課程進学者に占める本学医学科の卒業生の割合は30～40%台である。

6-5-3. 教育の成果

6-5-3-1. 学生が身につけた学力や資質、能力

卒業生調査では、就職先及びこれまでのキャリアパスに関する満足度が他学部に比して高いことが示されている。また、在学中に身につけた能力として「人間関係の構築力」、「論理的思考能力」、「多様な価値観を理解し、尊重する力」が他学部に比して高い数値となっている。

6-5-3-2. 学修に対する学生の評価

学生による授業評価、学生が身につけた学力や資質、能力、学生による教育成果に対する評価に関する調査を実施しており、卒業時アンケート調査では高い達成度と満足度を示している。

6-5-3-3. 教育成果に対する学生の評価

卒業生調査では、就職先及びこれまでのキャリアパスに関する満足度が他学部に比して高いことが示されている。また、在学中に身につけた能力として「人間関係の構築力」、「論理的思考能力」、「多様な価値観を理解し、尊重する力」が他学部に比して高い数値となっている。

6-5-4. 学生支援

6-5-4-1. 学生へのガイダンス

成績不良学生や留年学生に対し、必要に応じて個別履修指導を行っている。また、1年次のクラスチューター制度、各コースでのオリエンテーション、コース進級時の教員との懇話会など多様な学生支援を実施している。

6-5-4-2. 社会人学生の指導

フルタイムの社会人として勤務しながら医学科の学生として学ぶものはいないため、社会人学生に特化した指導は行っていない。学士編入制度により入学した学生の中には、社会人から転身したものが含まれている。

6-5-4-3. 留学生の指導

2008年度から香港大学李嘉誠医学院を皮切りに世界中の大学と臨床実習の相互派遣を実施している。留学生を受け入れる診療科の教員や指導医が指導を担当するが、同時に国際連携室も、留学の受け入れ準備から帰国まで、手続きから生活全般に渡り、幅広く指導し支援している。臨床実習の相互派遣の実績を資料24に示す。

資料24 臨床実習の相互派遣の実績

年度	受入			派遣		
	国・地域	校数	人数	国・地域	校数	人数
2016	10か国・地域	12校	32名	2か国・地域	2校	6名
2017	9か国・地域	14校	34名	4か国・地域	4校	9名
2018	11か国・地域	18校	53名	5か国・地域	7校	15名
2019	12か国・地域	19校	36名	8か国・地域	9校	16名

6-5-4-4. 入学料・授業料免除及び奨学生採用の状況

入学料・授業料免除及び奨学生採用の実績を資料 25～26 に示す。

資料 25 入学料・授業料を免除した人数

年度	授業料 【前期】	授業料 【後期】	入学料
2016 年度	43	45	0 (1 年次総合教育部対応, 編入学該当者なし。)
2017 年度	37	43	0 (1 年次総合教育部対応, 編入学該当者なし。)
2018 年度	45	47	0 (1 年次総合教育部対応, 編入学該当者なし。)
2019 年度	45	49	0 (1 年次総合教育部対応, 編入学該当者なし。)

資料 26 奨学生 (日本学生支援機構) 奨学生採用実績

年度	1 種	2 種
2016 年度	1	9
2017 年度	5	8
2018 年度	1	6
2019 年度	2	4

6-5-4-5. 表彰制度

資料 20 のとおり。

6-5-5. 教育活動(教育組織以外)

6-5-5-1. 教育活動の実施状況(教育組織以外)

教育組織以外での教育活動として、各教室が独自に行っている勉強会と学生の研究活動、学会、論文発表等について調査した結果を資料 27 に示す。

資料 27 各教室等で行っている勉強会と学生の研究活動、学会、論文発表

No	教室名	実施年月	参加学生数	年間開催回数	主なテーマ等
1	分子生物学	2016 年 5 月～ 2020 年 3 月	10 名程度	30 回	論文紹介とともに、情報交換等を行う。
2		2016 年 4 月～ 2020 年 3 月	随時相談の上、決定	1 回	シグナルネットワーク研究会に参加し、情報交換等を行う
3		2016 年 4 月～ 2020 年 3 月	随時相談の上、決定	2-3 回	がんと炎症・代謝研究会の活動に参加し、情報交換等を行う
4	細胞生理学	～現在	約 5 名	毎週水曜日	輪読会 (顕微鏡, 細胞生物学, 生理学に関する英教科書の輪読。)
5		～現在	約 3 名	隔週金曜日	ジャーナルクラブ (細胞生物学に関する論文の紹介, 発表)
6		～現在	約 3 名	隔週金曜日	Idea Seminar (細胞生物学など研究室の研究内容に関する紹介, 討論)

					会)
7		2019年9月2日～9月4日	7名	年1回	蛍光顕微鏡に関する知識提供および研究資料観察など実践的体験会
8	神経薬理学	2014年4月～現在も継続中	5名	30回	神経薬理学に関する英文教科書の輪読
9	分子病理学	2016年4月～2020年3月	1名	33回	実験病理学の原著論文を紹介
10		2016年4月～2020年3月	3名	15回	担当臨床医を交えた病理解剖症例の解析
11		2016年4月～2020年3月	10名	25回	病理医と読むNEJM Case records
12	腫瘍病理学	1986年～毎週1回(夏休み, 冬休みのぞく)	20名前後	30回程度毎週火曜(年末年始, 春休み夏休みを除く)	ロビンス著「Pathologic Basis of Disease」英語版の読解
13		2016年1月～2019年9月	6名	40回程度(毎週火曜日17:00-18:00)	医学部の学生さん達が自らの研究テーマを持ち, 研究目的の達成のために研究を行った結果について, 本研究ミーティングで問題点の解決法や今後の研究の方針などを議論する。
14		2018年4月～2019年3月	5～12名	24	人工知能や病理診断の応用研究, 報告や話題など
15	免疫学	2019年9月～2020年3月	10名程度	月1回	ジャーナルクラブ(免疫学に関連する論文を見つけ, 学生同士で発表・議論する)
16	病原微生物学	現在まで	5名	40回	病原微生物学に関する研究内容や論文について議論する
17	公衆衛生学	現在まで	3名	約50回(1回/週)	教室に在籍する大学院生, 助教, 客員研究員らの研究について紹介, ディスカッションする。また, 各回1名がその時のトピック的な論文を紹介し, その内容を吟味共有する
18		現在まで	2名	4-5回	公衆衛生学, 疫学研究に関連する分野の第一人者を迎えて, 最新情報を紹介いただき, 研究のノウハウを学ぶ

19		現在まで	27名	1-2回	北海道, 札幌市の医療行政の現場でご活躍の先生や厚生労働省の医系技官の先生をお招きし, 当教室教員, 院生さらに学部生を交え, 意見を交わしながら医療行政・地域保健について理解を深める
20	医療統計学	2020年3月～現在	5名	40回	Statistics in Medicineを読む
21	腫瘍内科学	2018年5月～現在まで	延べ30名	2018年度10回	研修医・学生レクチャーとして, 下記のテーマで, 年間10回程度開催した。 がん薬物療法に関する各臓器でのトピックス がんゲノム医療 腫瘍免疫など
22	血液内科学	2019年5月～毎週火曜日継続中	2-3名	毎週火曜日朝7:45～	同種造血幹細胞移植の勉強会
23	画像診断学	2018年3月～2018年3月	30名	3回(中止1回)	人工知能時代のPythonセミナー
24	消化器外科学 I				縫合結紮
25	消化器外科学 II	2019年4月～2020年3月	25名	3回(中止1回)	医学生・研修医のための早期外科体験・勉強会。
26	循環器・呼吸器外科学			1回	豚の臓器を使用したウェットラボ(手術体験セミナー)
27	麻酔・周術期医学	2016年4月～2020年3月	4～6名	100回	journal club, 症例・研究検討
28	形成外科学	2016年8月～2020年3月	毎回1～5名	2回	形成外科アカデミー(地域医療における形成外科診療, 大学院生の発表, 招待講演などから構成される。)
29		2016年8月～2020年3月	毎回1～2名	1回	形成外科フォーラム(北海道の形成外科の診療と看護に携わる医療関係者の勉強会)
30	小児科学	2017年10月～2019年8月	6から20名程度	40回程度	医学生が知っておくべき小児医療に関するwebセミナー

31		2016年4月～ 2020年3月	6から10名 程度	1回	新生児蘇生, 心音聴取など小児科において基本とされる手技を1泊2日で 医学部医学科4から6年生を対象に シミュレーション実習
32	産婦人科学	2016年6月4 日～5日	13名	年1回	WIND(産婦人科)サマーセミナー 2016 産婦人科基礎手技(腹腔鏡, 胎児超音波, 分娩介助, 新生児蘇生)を実際に体験でき, 形成外科医による真皮縫合実習, 放射線診断医による画像診断実習などを通して, 通常実習では知り得ない産婦人科医の本当の生活を知る
33		2017年7月1 日～2日	10名	年1回	WIND(産婦人科)サマーセミナー 2017 産婦人科基礎手技(腹腔鏡, 胎児超音波, 分娩介助, 新生児蘇生)を実際に体験でき, 形成外科医による真皮縫合実習, 放射線診断医による画像診断実習などを通して, 通常実習では知り得ない産婦人科医の本当の生活を知る
34		2018年6月9 日～10日	35名	年1回	WIND(産婦人科)ハンズオンセミナー 2018 産婦人科基礎手技(腹腔鏡, 胎児超音波, 分娩介助, 新生児蘇生)を実際に体験でき, 形成外科医による真皮縫合実習, 放射線診断医による画像診断実習などを通して, 通常実習では知り得ない産婦人科医の本当の生活を知る
35		2019年6月15 日～16日	19名	年1回	WIND(産婦人科)ハンズオンセミナー 2019 産婦人科基礎手技(腹腔鏡, 胎児超音波, 分娩介助, 新生児蘇生)を実際に体験でき, 形成外科医による真皮縫合実習, 放射線診断医による画像診断実習などを通して, 通常実習では知り得ない産婦人科医の本当の生活を知る。

36	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2016年4月～ 2020年3月	3～5名	年6回	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学に関する基礎的・臨床的研究
37	眼科学	2009年6月～ 現在	100名/年	40回	北大眼科リサーチカンファレンス：外部から講師を招聘しての講演会や内部の研究発表等を行い、主に研究方面での最新知識を導入する。
38		2009年6月～ 現在	100名/年	40回	北大眼科クリニカルカンファレンス：その週に外来を受診した症例を取り上げ、その診断や今後の治療について、討論を行う。また翌週の手術予定患者についての検討会も行う。
39		2009年6月～ 現在	約400名/年	80回	北大眼科モーニングクルーズ：学生および研修医を対象に行われる専門知識に関する講義
40	医学教育・国際交流推進センター	2019年10月～ 2019年10月		3回	留学体験セミナー
41		2019年11月～ 2019年12月		2回	インターナショナルアワー
42		2019年10月～ 2020年2月		5回	Patient case presentation in English
43		2020年1月～ 2020年2月		4回	医学英語セミナー

7. 広報

7-1. 広報活動

7-1-1. 一般広報・入試広報

7-1-1-1. 報道

2016年度から2019年度にかけて、医学研究院のホームページを随時拡充し、最新の学会情報、研究成果に関するプレスリリース、教員の受賞情報を研究院内で共有できるようにした。4年間で69件のプレスリリース、205件の受賞情報を広報した。研究者への最先端研究に関するテレビ・新聞等の取材などは、必要に応じて、アウトリーチ活動の一環として広報室が支援した。

7-1-1-2. ホームページ

本研究院・医学部医学科ホームページは、2007年度に大幅改修を行ったが、2011年度にはさらにホームページ内容を拡充し、学会情報や研究成果に関するプレスリリース、教員の受賞情報を掲載するようにし、研究科情報を社会にむけてきめ細かに広報する現在のウェブの体制を整えた。2012年度には、分野概要英語ページの更新を広報室が担当して行い、国際連携室が発

行している各種情報についても、広報室と連携して定期的にウェブで情報を掲載・発信してきた。2014年度には、国際化の進展に対応して部局メインウェブサイト英語版のリニューアルを行った。それまでの英語サイトは限られた情報だけを掲載していたが、日本語サイトと同等の内容を英語サイトにも掲載することにより、広く世界に向けた情報発信が可能となった。この改編では時代の趨勢に即して視覚面を重視し、多くの人の目に留まる親しみやすいデザインを目標とした。2015年度には日本語サイトでも同様のリニューアルを行い、これ以降は日英両サイトが統一された構成と外観で維持されている。

医学部医学科に関する募集要項、入試情報等を、随時ホームページに掲載している。合格者の発表、及び学科編入の志願状況を、ウェブ上でも公開している。

2017年4月に大学院の再編と医理工学院の設置が行われる予定に対応し、メインサイトと大学院進学希望者向けサイトを統合して新たに「医学部医学科・医学院・医理工学院・医学研究院ウェブサイト」として再構成する計画を2016年度に開始した。ウェブサイトに対する攻撃が世界的に増加していたことから安全確保が強く求められていた情勢を反映し、今回のサイト制作と実装はセキュリティを最重視して行った。部局再編と同時に新サイトが公開された後は継続的に内容を追加し、教室の研究内容、大学院学生の学修・研究活動、部局全体に係る各種データなど豊富な内容を掲載しており、今後も適時に拡充を行う予定である。

7-1-1-3. 刊行物

2017年度から北大医学部百周年記念誌の編纂作業をすすめており、百周年記念誌刊行小委員会を設置し、教員を配置することで、事務部との連携を取りながら記念誌の刊行作業を推進している。

医学部医学科・医学院で定期的に発行している刊行物を資料28に示す。一般広報として、医学部「広報」を年3回刊行している。

医学科及び医学院に進学希望者向けの入試広報として、医学科、修士課程、博士課程の各種案内と概要を年1回発行している（資料28）。

広報室一般広報及び入学希望者等にむけた入試広報を、各種入学希望者向けのイベント等（オープンキャンパス等）で利用するために完成時期を設定し、鮮度の高い情報を更新している。

資料 28 刊行物一覧

広報誌等名	発行回数	掲載内容等	形態
北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要（日本語版）	年1回	医学研究院・医学院・医学部の沿革，組織，職員数，学生数等の概要を掲載	冊子，PDF版
北海道大学大学院医学研究院・医学院・医学部医学科概要（英語版）	年1回	医学研究院・医学院・医学部の沿革，組織，職員数，学生数等の概要を掲載（英文）	冊子，PDF版
北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科広報	年3回	医学研究院・医学院・医学部医学科のニュース，トピックス，お知らせ等を掲載	冊子，PDF版
北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科紹介DVD	不定期	入学志願者，一般向けにカリキュラム，医学研究院・医学院・医学部医学科の特色等を紹介	DVD
北海道大学医学部医学科紹介動画（日本語版）	不定期	入学志願者，一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	YouTube動画
北海道大学医学部医学科紹介動画（英語版）	不定期	入学志願者，一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	YouTube動画
北海道大学医学部医学科案内	年1回	入学志願者，一般向け医学科案内	冊子，PDF版
VIS-Voice of the International Students- 国際連携部門だより（英語版）	年3回	留学生（大学院生・交換留学生），医学科学生の意見，国際交流イベントの紹介・参加者の感想等を掲載	冊子，PDF版
北海道大学 大学院医学院 修士課程案内（日本語版）	年1回	入学志願者，一般向け医学院修士課程案内	冊子，PDF版
北海道大学 大学院医学院 修士課程案内（英語版）	年1回	入学志願者，一般向け医学院修士課程案内（英文）	冊子，PDF版
北海道大学 大学院医学院 修士課程公衆衛生学コース 学生募集チラシ	不定期	入学志願者向けに募集案内	チラシ
北海道大学 大学院医学院 修士課程公衆衛生学コース 学生募集チラシ（英語版）	不定期	入学志願者向けに募集案内（英文）	チラシ
北海道大学 大学院医学院 博士課程案内（日本語版）	年1回	入学志願者，一般向け医学院博士課程案内	冊子，PDF版
北海道大学 大学院医学院 博士課程案内（英語版）	年1回	入学志願者，一般向け医学院博士課程案内（英文）	冊子，PDF版
北海道大学大学院医学研究院 連携研究センター「フラテ」概要	年1回	センターの組織，研究概要，セミナー，研究業績等を掲載	冊子，PDF版

7-1-1-4. オープンキャンパスの実施状況

オープンキャンパスは毎年8月に自由参加プログラムを初日に，高校生限定プログラムを2日目に開催している。自由参加プログラム（予約必要なし）では，毎年度定員を越える多数の参加者（参加者数は資料29のとおり）がある。

初日の進行として，

- ① 医学部長挨拶

- ② 医学部医学科紹介 DVD の映写
- ③ 医学部・大学病院での教育・研究・診療施設の見学
- ④ 質疑応答

からなる2時間余りのコースを企画し、午前午後に分けて2回実施してきた。

施設見学では、参加した高校生や保護者を6つのグループに分け、アドミッション実施部会員と医学科生2名が各グループを引率し、教育施設、研究施設、診療施設を順に訪問する。見学終了後は再びホールに集まり、活発な質疑応答を行っている。

2日目の高校生限定プログラムでは、講義と実習からなる模擬授業を行っている。医学部長による挨拶の後、主に若手教員による講義を40分ほど行う。その後、模擬解剖学実習、病理学実習、生理学実習を行っている。実習には、教員・大学院生と医学科生が参加し、高校生への対応を行っている。例年、オープンキャンパス後におこなうアンケートでは、満足度、理解度共に高いレベルを示し、毎年度非常に好評を博している。

2020年度は新型コロナウイルス感染の流行により、全学的にオンラインでオープンキャンパスを行い、医学科では学部長の挨拶と医学科紹介の動画に加え、前年度のエクセレントティーチャー賞を受賞した3名の若手教員による模擬講義を配信し、多くのアクセスを得た。2021年度はこれまでのオープンキャンパスを刷新し、対面での開催を予定している。

資料 29 オープンキャンパスの参加者数

2016年度

自由参加プログラム、参加人数集計

実施時間種別	居住地種別	区 分							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	20	30	6	1	57	5	3	0	65
	市外道内	26	16	2	0	44	12	1	0	57
	その他	29	41	17	7	94	61	3	0	158
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	75	87	25	8	195	78	7	0	280
午後の部(第2回)	札幌市内	30	22	4	3	59	12	5	0	76
	市外道内	32	20	1	3	56	29	3	0	88
	その他	24	27	14	7	72	39	5	0	116
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	86	69	19	13	187	80	13	0	280
総合計	札幌市内	50	52	10	4	116	17	8	0	141
	市外道内	58	36	3	3	100	41	4	0	145
	その他	53	68	31	14	166	100	8	0	274
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	161	156	44	21	382	158	20	0	560

高校生限定プログラム参加等人数集計

	居住地 種別	区 分							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		1年	2年	3年	既卒 受験生	小計				
当日参 加者数	札幌市内	10	25	13	0	48	0	0	0	48
	市外道内	5	9	6	0	20	0	0	0	20
	その他	7	13	4	1	25	0	0	0	25
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	22	47	23	1	93	0	0	0	93

2017年度

自由参加プログラム、参加人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	16	24	12	3	55	15	2	0	72
	市外道内	18	18	3	0	39	18	0	0	57
	その他	16	34	8	1	59	31	1	0	91
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	50	76	23	4	153	64	3	0	220
午後の部(第2回)	札幌市内	22	32	6	2	62	17	1	0	80
	市外道内	12	16	1	4	33	16	2	0	51
	その他	12	31	10	4	57	27	5	0	89
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	46	79	17	10	152	60	8	0	220
総合計	札幌市内	38	56	18	5	117	32	3	0	152
	市外道内	30	34	4	4	72	34	2	0	108
	その他	28	65	18	5	116	58	6	0	180
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	96	155	40	14	305	124	11	0	440

高校生限定プログラム①参加等人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	7	14	4	0	25	0	0	0	25
	市外道内	7	7		0	14	0	0	0	14
	その他	5	8	1	0	14	0	0	0	14
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	19	29	5	0	53	0	0	0	53
午後の部(第2回)	札幌市内	5	3	6	0	14	0	0	0	14
	市外道内	7	4	2	0	13	0	0	0	13
	その他	5	13	4	0	22	0	0	0	22
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	17	20	12	0	49	0	0	0	49
総合計	札幌市内	12	17	10	0	39	0	0	0	39
	市外道内	14	11	2	0	27	0	0	0	27
	その他	10	21	5	0	36	0	0	0	36
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	36	49	17	0	102	0	0	0	102

高校生限定プログラム②参加等人数集計

	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
当日参 加者数	札幌市内	9	15	7	0	31	0	0	0	31
	市外道内	12	13	1	0	26	0	0	0	26
	その他	8	17	4	0	29	0	0	0	29
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	29	45	12	0	86	0	0	0	86

2018 年度

1. 自由参加プログラム、参加人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	14	19	16	0	49	9	2	0	60
	市外道内	18	12	0	0	30	11	0	0	41
	その他	16	35	9	3	63	45	6	0	114
	不明	0	0	0	0	0	0	0	5	5
	合計	48	66	25	3	142	65	8	5	220
午後の部(第2回)	札幌市内	17	17	6	5	45	12	3	0	60
	市外道内	8	4	6	2	20	8	0	0	28
	その他	20	40	12	6	78	45	2	0	125
	不明	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	合計	45	61	24	13	143	65	5	7	220
総合計	札幌市内	31	36	22	5	94	21	5	0	120
	市外道内	26	16	6	2	50	19	0	0	69
	その他	36	75	21	9	141	90	8	0	239
	不明	0	0	0	0	0	0	0	12	12
	合計	93	127	49	16	285	130	13	12	440

高校生限定プログラム①参加等人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	13	16	3	0	32	0	0	0	32
	市外道内	5	4	1	0	10	0	0	0	10
	その他	2	7	0	0	9	0	0	0	9
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	20	27	4	0	51	0	0	0	51
午後の部(第2回)	札幌市内	11	14	3	0	28	0	0	0	28
	市外道内	3	5	0	0	8	0	0	0	8
	その他	2	11	1	1	15	0	0	0	15
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	16	30	4	1	51	0	0	0	51
総合計	札幌市内	24	30	6	0	60	0	0	0	60
	市外道内	8	9	1	0	18	0	0	0	18
	その他	4	18	1	1	24	0	0	0	24
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	36	57	8	1	102	0	0	0	102

高校生限定プログラム②参加等人数集計

	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
当日参加者数	札幌市内	9	18	10	0	37	0	0	0	37
	市外道内	14	12	1	0	27	0	0	0	27
	その他	5	19	3	1	28	0	0	0	28
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	28	49	14	1	92	0	0	0	92

2019 年度

1. 自由参加プログラム、参加人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	9	10	4	3	26	13	2	0	41
	市外道内	17	15	0	0	32	17	1	0	50
	その他	17	23	2	5	47	42	4	0	93
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	43	48	6	8	105	72	7	0	184
午後の部(第2回)	札幌市内	15	9	1	1	26	13	2	0	41
	市外道内	10	9	1	0	20	14	1	0	35
	その他	8	37	7	4	56	37	3	0	96
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	33	55	9	5	102	64	6	0	172
総合計	札幌市内	24	19	5	4	52	26	4	0	82
	市外道内	27	24	1	0	52	31	2	0	85
	その他	25	60	9	9	103	79	7	0	189
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	76	103	15	13	207	136	13	0	356

高校生限定プログラム①参加等人数集計

実施時間種別	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
午前の部(第1回)	札幌市内	10	13	3	0	26	0	0	0	26
	市外道内	12	8	2	0	22	0	0	0	22
	その他	3	6	2	0	11	0	0	0	11
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	25	27	7	0	59	0	0	0	59
午後の部(第2回)	札幌市内	9	4	1	0	14	0	0	0	14
	市外道内	20	3	1	0	24	0	0	0	24
	その他	6	10	0	0	16	0	0	0	16
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	35	17	2	0	54	0	0	0	54
総合計	札幌市内	19	17	4	0	40	0	0	0	40
	市外道内	32	11	3	0	46	0	0	0	46
	その他	9	16	2	0	27	0	0	0	27
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	60	44	9	0	113	0	0	0	113

高校生限定プログラム②参加等人数集計

	居住地	学年等							不明	合計
		高校生等					保護者	その他		
		高1	高2	高3	既卒 受験生	小計				
当日参 加者数	札幌市内	27	18	1	0	46	0	0	0	46
	市外道内	8	5	2	0	15	0	0	0	15
	その他	9	22	3	1	35	0	0	0	35
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	44	45	6	1	96	0	0	0	96